近代化とアイヌ同化政策の影響

明治時代（1868-1912 年）は日本に急速な近代化と大規模な土地改革をもたらしましたが、これらの変化は北海道に住むアイヌにとって困難をもたらしました。土地と資源の私有化、狩猟と漁労の制限により、アイヌは伝統的な生活様式を続けることが困難になりました。1899 年、政府は北海道旧土人保護法を制定しました。これは権利保護を装いながら、アイヌを日本文化に同化させるためのプログラムでした。

法律はアイヌの世帯に約 5 ヘクタール（12 エーカー）の土地を与えると規定していましたが、これらの区画の多くは農業に適していませんでした。さらに、一定期間内に土地を耕作できなかった場合、彼らはその土地を取り上げられる危険性がありました。

教育は政府が同化を強制する手段のひとつでした。アイヌの子どもたちのための学校が設立され、日本語と日本の習慣を教えるようになり、アイヌ語の使用は減少していきました。